図書館だより

The Library Newsletter of National Institute of Technology, Ube College

第132号
2025年
7月

目次

02〜03　夏に関する特集
04〜05　新任教員のオススメ本
06　POP本紹介
07　ポスターコンクールについて
08　ひととき

表紙：志良堂　倫斗（２年物質工学科）石川　愛夏（１年経営情報学科）
大田　怜佳（１年物質工学科）折田　恵都（４年物質工学科）

楽しみいっぱい！夏特集

篠原　勇仁
（２年電気工学科）

温暖化で日本の海に何が起こるのか/山本智之

温暖化で我々の生活が脅かされるかもしれない。この本は、著者自身が収集したものを含めた聞き込み資料や調査を基に変化しつつある海の生態系の現状等が記されているものである。この本の良いところは、 章・節分けと各所にある画像で文章が分かりやすくなっているところである。温暖化は地上においても大きな影響を与えているが、海の生物たちは環境の変化に敏感で、海水面の上昇による生息域の北上、個体数の減少が見られている。例えば、南方系の魚やサンゴ の生息域は海水温の上昇により、太平洋の日本列島周辺へと変わっていき、それに伴って構成されていた食物連鎖も変わり、敵である魚や死滅回遊魚の増加、水温適応などで過去見られなかった魚が様々な場所で観測されている。このように温暖化から問題が連鎖的に起こっていることが多く、それぞれが我々の生活に関わってくる。暑さが予想される夏、是非日本の海に何が起こるのか読んでみてほしい。

仲嶋　桔平
（３年物質工学科）

海洋探検シリーズNo.4　海底の賢者　タコ /ジャック=イブ・クストー、フィリップ・ディオレ 共著，森珠樹 訳

タコと聞くと、どのようなものを思い浮かべるでしょうか。あなたを含めた大半の日本人は寿司やたこ焼きといった食について思い浮かべるでしょう。太平洋の先にいる人間の、悪魔や怪物といった旧時代の異物とも言える偏見よりかは幾分かましですが、それでも海中生物の平均IQに大きな貢献をしている賢者に対する妥当な評価であるとは言えません。この本ではそんなタコの厳しい自然環境で生き残るために、地に足を委ね生身で海に沈められれば裏返された甲虫のように上に向かってもがくことしかできない我々では身につけることのできなかった変幻自在の変身術や、悠久の時の中で受け継がれた野生の知恵などを著者の鋭い観察力とユーモア溢れる表現を交え楽しく読み進めていくことができます。ぜひこの夏休みによんでルネサンスの時代から人類に畏敬の念を植えつけている海の賢者について思いを馳せてみてください。

岡田　美咲
（１年物質工学科）

残穢/小野不由美

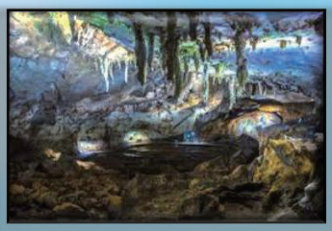
実際の怪談とフィクションが交錯する異色のホラー小説である。物語は、作家である語り手をもとに届いた一通の手紙から始まる。その手紙には、ある部屋に住んでいた際に体験した不穏な出来事が綴られていた。興味を持った語り手は、手紙の内容をきっかけに独自の調査を進めていく。やがて浮かび上がってくるのは特定の土地に深く染みついた「穢れ」の連鎖と、それに引き寄せられるように起きる怪異の数々。その背景には過去の事件、住人たちの因縁、そして時代を越えて繰り返される不可解な出来事が絡み合っていた。静かで理知的な筆到でありながら、じわじわと心が蝕む恐怖が読む者の現実感をも揺るがしていく。「本当にあったかもしれない」という錯覚すら抱かせる。現実と虚構の境界を揺るがす傑作である。

期間の長い夏休み。夏に合うおすすめの本や場所をまとめました。参考にしてみては？

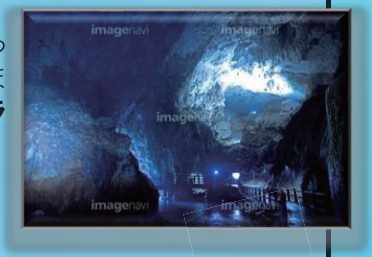
図書館学生ボランティアからの本紹介

本と一緒に夏の旅に出かけよう！夏休みにおすすめの場所

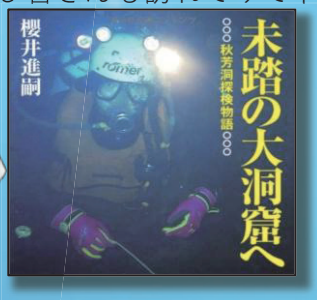
秋芳洞～壮大な自然で非日常を～



山口県美祢市にある日本最大級の鍾乳洞で、特別天然記念物に指定されています。**洞窟内は17℃**であり、夏も涼しい名スポットとなっています。どうしてこんなにも温度が下がるのでしょうか。鍾乳洞の鍾乳石などの周りの温度は地中の温度で約１５℃になります。なので人体の熱が奪われる形になり涼しく感じるのです。



中でも、秋芳洞に入って直ぐに見える「**青天井**」は圧巻です。入口から差し込む光が地下水に反射することで天井をぼんやり青く光らせています。青天井に限らずどれも壮大で思わず見惚れてしまいます。また、**ライトー本で洞窟内を巡るコースもある**とか…冒険心がそそられますね。テレビなどでしか見られないような非日常を体験することができます。ぜひ皆さんも訪れてみて下さい！



「未踏の大洞窟へ～秋芳洞探検物語～」(櫻井進嗣)では、観光では見に行けない**最奥部**を目指す洞窟探検家の軌跡を見ることができます。ロマンあふれる冒険に心がわくわくしてきます。より深く、より奥へ、挑み続ける人々の努力と精神力にも注目です。「自分も頑張ろう」そう思わされるような本ですので、是非、読んでみてください。

冨永　咲愛（１年物質工学科）

宇部市花火大会～幻想的で美しい花火の世界～

10000発もの花火が打ち上げられる、県内でも有名な「宇部市花火大会」が今年も開催されます！会場には活気あふれる出店が多数立ち並び、お祭り気分も楽しむことができます。おすすめは、宇部港沿いで見ること！海風を感じさせながら、宇部の夜空を華やかに彩る花火には、感動すること間違いありません。幻想的で美しい花火の世界に、あなたも浸ってみたいとは思いませんか？家族と、友人と、特別な人と、日常を忘れ過ごす時間は、きっと思い出になるでしょう。**2025年8月9日、20時から打ち上げ開始**です！「宇部市花火大会」へぜひお越しください。

湊かなえの「少女」。女子高生の敦子と由紀は「人が死ぬのが見たい」と感じていた。敦子は老人ホームへ、由紀は病院へ、それぞれ通い詰める。死の瞬間に立ち会うために。そんな2人の夏休み、花火が夜空を彩る中、殺人未遂事件に遭遇する。**花火大会の時期にぴったりの青春ミステリー**です！

兼島　綾那（１年物質工学科）

新任教員おすすめの本

経営情報学科
助教　陳 淑琳

三体

著:劉慈欣

中国の作家・劉慈欣によるSF小説『三体』は、壮大な宇宙観と深い哲学的問いを兼ね備えた物語です。物語は、文化大革命期の中国から始まり、異星文明とのコンタクトという壮大なスケールへと展開していきます。地球と三体星という二つの文明の衝突を描きながら、人類の科学・倫理・未来に関する問いを読者に投げかけています。

本作をおすすめする理由は、科学とフィクションの融合が見事で、天体力学、量子物理、コンピュータ科学といった要素が物語の根幹を支えており、登場人物たちの選択や葛藤を通して、「人間とは何か」「文明の進歩とは何か」といった深い問いを考えるきっかけを与えてくれるからです。読みごたえがあり、かつ学問の面白さや人間の本質に触れられる一冊として、『三体』は高専生に強くおすすめしたい本です。

<弱いロボット>の思考 わたし・身体・コミュニケーション

著:岡田美智男

「ロボット」と聞いて、どんなものを想像しますか？ 私は完璧な存在を想像していました。――この本を読むまでは。

冒頭には、お掃除ロボットの話が出てきます。そのロボットが動けなくなると、私たちはつい手を貸してしまいます。動きやすいようにと、床の物を片付け、家具まで動かす。気付けば私たちも掃除をしています。 お掃除ロボットは、自力では仕事をできない「弱さ」を持っています。しかし、その弱さこそが人の助けを引き出し、掃除を完遂させたのです。

ダメなロボットだと思っていたのに、見方を変えると、人を動かす力を持っている。その視点の変化に驚きました。

彼らは、一人で仕事を成し遂げられませんが、人の助けを引き出します。 いったい何が、私たちをそうさせるのか？「弱いロボット」を通して、「弱さ」が持つ力について考えさせられる一冊です。

機械工学科
助教 布川 拓海

制御情報工学科 特命助教
カミリン モハマドハフィズ
ディンビン

わたしが「わたし」を助けに行こう ―自分を救う心理学―

著:橋本 翔太

本書は、自分のなかにいる“もうひとりの自分”との対話を通じて、抱えている不安や「どうして自分だけできないんだろう」という思いをほどきながら、前に進む勇気をもらえる一冊です。「本当は自分が自分を守っていた」という考え方が提示されることで、単に問題を先延ばしせず、新しいことにも積極的に挑戦してみようという気持ちになれるのが特徴です。読み終わった後、「自分にもできる」「もう少しやってみよう」といった、やさしくも力強い応援を感じられます。

本書は、自己理解を深め、心の可能性を引き出す手助けをしてくれます。自分自身の最大の味方になる方法を学び、人生の様々な場面で役立つスキルを身につけられるでしょう。この本が多くの人にとって心の支えとなり、新たな挑戦への一歩を踏み出すきっかけになることを願っています。

物質工学科
特命助教　竹田 昂司

シカゴ・スタイルに学ぶ論理的に考え、書く技術

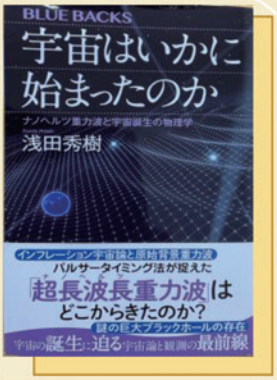
著:吉岡友治

皆さんは普段からレポートや期末試験における記述問題、卒業論文等において文章を書いていますよね。皆さんは文章を書くことは得意ですか？本書は文章作成に日々悩む人たちに向けて、分かりやすい文と文のつなぎ方、効果的な段落の作り方、内容の展開の仕方等を、例文を多数使用しながら解説してくれています。

書店に行くと文章の書き方をまとめた教本は数多くありますが、この本は各章毎に例文を提示し、改善点を読者に考えさせた後にどのようなポイントを改善すれば良いかを解説し、最後にワンポイントアドバイスを載せるといった構成で書かれているため、とても頭に残りやすいです。 レポートの質を上げたい人、就職活動でエントリーシートの書き方に悩んでいる人、多くの人に役立つ本だと考えます。興味のある方はぜひご一読ください。

宇宙はいかに始まったのか ナノヘルツ重力波と宇宙誕生の物理学

著:浅田秀樹



本書は、最新の宇宙論やブラックホール、重力波観測の技術を高校生程度の知識でも理解できるよう解説した入門書です。予備知識はなくても、1章で「重力とは何か」から丁寧に説明されているので、安心して読み進めることができます。

ブラックホールが形成されることを数学的に証明した「特異点定理」というものがあります。私はこの定理が大好きなのですが、本書のコラムでこの定理が紹介されているんです。

みなさんは、時空が歪んでいるということやブラックホール同士が衝突するということが現実に起きていることを知っていますか? 私自身が高校3年生のときに相対性理論を初めて学んだ際、世界観が一変するような感動を覚えました。その驚きと興奮を、本書を通して読者のみなさんにもぜひ味わっていただきたいです。

一般科(数学科)
講師　工藤 龍也

一般科(数学科)
講師　青山 昂頌

「志学　数学」

著:伊原　康隆

本書の序盤には数学の勉強法が提案されており、「時間をかけて数学を理解する」ことの意味を改めて教えられました。数学科向けの勉強法ではありますが、長い学生生活で数学をじっくり学び、楽しむことができるチャンスです。

また、中盤では相手に伝わる発表や論文の手引きが書いてあり、私は資料作成の参考にしています。途中、国際学会に参加した際の思い出や論文が受理されるまでの編集室とのやり取りなどを生き生きと書いてあるので、研究発表を予定している方だけではなく、数学研究の雰囲気を知りたい方にもおすすめです。

終盤では数学者の周りの環境などを描いており、一人の数学者の価値観を覗くことができます。 数学を学んでいる方や数学者の一面を知りたい方に是非とも一読していただきたい一冊です。

働き方——「なぜ働くのか」「いかに働くのか」

著:稲盛和夫

本書の最大の魅力は、「仕事を通じて人間性を高める」という考え方にあります。著者は、努力を惜しまずに働くこと、常に自分を磨くこと、そして利他の心を持って仕事に取り組むことの大切さを説いています。これらの教えは、単なる成功法則にとどまらず、人としてどう生きるべきかという根本的な問いに答えてくれるものです。

また、経営者やビジネスリーダーだけでなく、社会人一年目の若手からベテラン社員、さらには日々の生活に悩むすべての人にとって、心の支えとなる内容が詰まっています。平易な言葉で書かれているにもかかわらず、その一言一言が心に深く響き、読む人の意識を変える力を持っています。

仕事を「生きがい」として捉え、自分を高めながら社会に貢献するという、真のプロフェッショナリズムを学べる一冊です。

電気工学科
講師　陶 婷

岸田　流我（４年制御情報工学科）、永安　彩星、長谷川　遼（３年経営情報学科）

POPコーナーの紹介

貸し出しカウンター右側「シラバスコーナー」の棚の上に、図書館ボランティアが作成したPOPを展示しています。
前期では、「夏に読みたい本」をテーマにPOPを作成しました。
ホラーから心温まる作品まで紹介しているのでPOPを参考にこの夏たくさんの本を皆さんに楽しんでほしいです。
POPでピックアップされた本の中から一部をご紹介します。

昨年の後期に作成したPOP

シラバスコーナー

あの夏を泳ぐ 天国の本屋　松久 淳，田中 渉

あの夏、同じプールで何度も競い合っていた麻子と朝子。名前もイニシャルも、専門とする長距離種目のタイムも「秒」までぴったり同じ。でも、性格も考え方もまるで違う。ストイックで様々な大会で記録を残してきた麻子と、根性と持ち前の運動神経で泳ぐ朝子。張り合いながらも、どこか認め合っていた二人。
卒業から5年後のOB会の日。ふたりはそれぞれ別の場所で、アロハシャツを着た不思議な雰囲気の老人と出会う。麻子は成り行きでとある不思議な本屋を訪れ、朝子は約束のお守りを渡されて･･･。
クスッと笑えるようなやり取りとやわらかな挿し絵が、読んでいるこちらの気持ちにもやさしく寄り添ってくれます。少しだけ立ち止まって、自分のことや誰かとの時間を思い返したくなるような、そんな一冊です。

夜は短し歩けよ乙女　森見 登美彦

大学のクラブの先輩である『私』と後輩の『黒髪の乙女』。私はクラブの先輩の結婚式に出席し、黒髪の乙女に恋をする。私は密かに彼女に思いを寄せ、気持ちを伝えるべく様々な場所を駆け回る。夜の先斗町、下鴨神社、大学の学園祭にも。そんな二人を待ち受けるのは、個性的な登場人物が繰り広げる珍事件の数々だった。
物語の舞台となる京都の街並みや、登場人物達が織りなす軽快なストーリーは夏らしい開放感や疾走感を表現しています。限りある青春の時間を躊躇なく心ゆくまで堪能しようとする登場人物たちの姿が幻想的な京都の風景と融合し、感傷に浸れる作品です。京都の名所も登場するので京都好きの人は楽しんで読めるかもしれません。恋愛やファンタジー要素も詰まった筆者の独特な世界観をぜひ味わってみてください！

この夏の星を見る　辻村 深月

コロナの影響で、学校の閉鎖や部活動の中止、コンクールの中止など、私たちの日常は一瞬にして消え去ってしまった。茨城県の高校2年生・亜紗、渋谷区の中学1年生・真宙、長崎県五島列島の旅館の娘・円華。それぞれ異なる場所にいる彼らがつながるきっかけとなったのは、「スターキャッチコンテスト」。自作の望遠鏡を使って星をつかまえるスピードを競うこのコンテストに向けて、離れた場所にいながらもリモートで交流し、懸命に努力を重ねていく。それぞれの思いや葛藤を抱えながらも、彼らは『違う場所にいても、空はひとつだから星は見られる』という思いを胸に、困難な状況の中でも希望を見出していく。コロナ禍だからこそ生まれた新しいつながりと、苦難を乗り越える勇気を描いた青春ストーリーです。

担当：佐藤 七海　（２年物質工学科）
河内 真乃　（２年物質工学科）
河口 由里亜（２年物質工学科）

図書館ポスターコンクール開催！！

読書の促進、図書館利用の促進のために、今年もポスターコンクールを開催します！本を読んだ感想や、自分の中の読書観を1枚のポスターに表現してみませんか？

応募資格

本科生、専攻科生、本校教職員

募集テーマ

読書の楽しさ、読書感想画、図書館利用のマナー向上、読書や図書館にかかわること

応募方法

A4サイズ１枚でポスターを作成し、図書館カウンターに直接提出する。デジタル・手書き、写真をメインに使用したデザインも可。
※オリジナルの作品に限る。（自動生成使用不可）
URLまたはQRコードを読み取って応募してください！
https://forms.office.com/r/emyjJnVwwy

募集締切

令和7年10月31日

賞品

最優秀賞	１名	図書カード5000円分
優秀賞	２名	図書カード3000円分
佳作	（多数名）	図書カード500円分

編集後記

図書館だより第132号をお読みいただきありがとうございます。
今回は、原稿に加えてデザインも図書館ボランティアメンバー内で作成しました。
どうだったでしょうか?皆さんの読書意欲を刺激するような、興味を引くようなものとなったのであれば大変嬉しく思います。
最後に、今回ご協力いただきました先生方に心より感謝申し上げます。
岩崎　千菜美（５年経営情報学科）

ひととき

一般科　**城戸 秀樹** 先生

―好きな本のジャンルは何ですか？

大学生の頃からよく読んでいるのは”新本格ミステリ“（綾辻行人、有栖川有栖などに代表される）や”雑学系“、パズルや頭の体操といった”ナゾトレ系“などです。今は”ハードボイルド系“（大沢在昌）や講談社の化学新書シリーズである”ブルーバックス“も読んでいます。

―おすすめの本は何ですか？

おすすめの本は綾辻行人さんの「**十角館の殺人**」です。この本は“新本格ミステリ”の起点であり、小説を読むようになったきっかけでもあります。最後の一文で物語が一気にひっくり返るところが最高に面白いです。

―学生時代にしていたことは何ですか？

基本的には家で本を読んだり、ゲームをしたりしていました。学生だった当時はインターネットが普及し始めた頃だったので、 娯楽はゲームや本でした。
サークル科学研究部に入っていたのですが、サークルメンバーとよくキングスコートというカードゲーム（UNO に攻撃カードを増やしたようなものらしい）やゲームボーイで遊んでいました。

―好きな食べ物は何ですか？

タコの刺身といった歯ごたえのあるものやカレーといった辛い物が好きです。料理にはトウガラシを使用したスパイスをかけて自分好みの辛さにしています。世界で１番辛い“ペッパーX”や２番目に辛い“ドラゴンズ・ブレス”、３番目に辛い“キャロライナ・リーパー”などを好んでかけたり、自分用として持ち歩いたりしています。

―休日は何をして過ごしていますか？

家事洗濯、部活動がある場合は部活動へ行きます。また、ラジオ番組の配信サービス「ラジコ」でよくラジオを聴きます。ラジオを流しながら作業をするため１日に１０時間以上聴くこともあります。 聴きたいラジオがたくさんあるので、２つの端末からそれぞれ別のラジオを流すこともあり、たまに混乱します。

―高専の先生になったきっかけは何ですか？

当時は博士課程まで進むと研究職か教職に就くしかなく、そこでたまたま宇部高専の求人を見つけました。 面接当日に迷子になった思い出があります。 最初は機械工学科の専門科目の教員として採用されたのですが、途中で一般科目の物理を教えるようになりました。 最初から高専の先生を目指したのではなく、様々な縁がきっかけで宇部高専の先生になりました。

―学生に一言

自分の好きなことをやるといいと思います。もし失敗しても学生のうちは大丈夫なので今しかできないことをしてほしいです。今は役に立たないと思っていても、将来的には何が役に立つか分からないので、自分の興味のあることにとことん打ち込んではいけばいいと思います。自分はあまり得意ではないのですが、コミュニケーションをとることも大切です。コミュニケーションをとることで、自分と異なる意見が新しい考えやひらめきに変わります。

担当/福澤 佑樹（４年電気工学科）、中村 羽菜、八鍬 青羽（４年制御情報工学科）

図書館だより132号
編集／宇部工業高等専門学校図書館学生ボランティア
発行／宇部工業高等専門学校図書館運営委員会 発行日／2025年7月
【URL】https://www.ube-k.ac.jp/library/